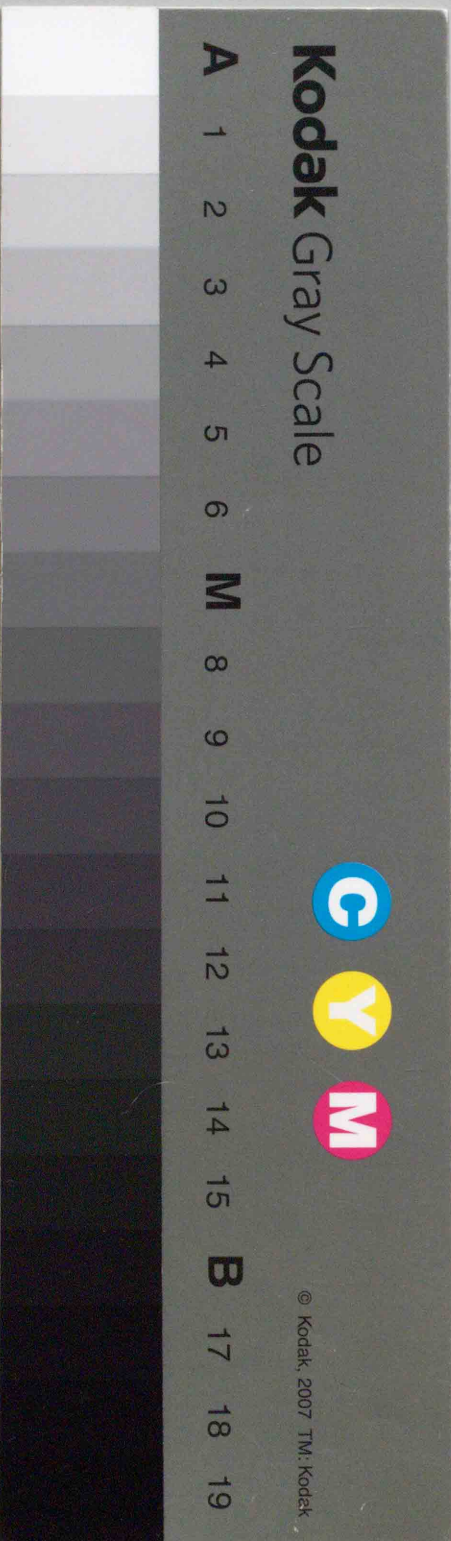
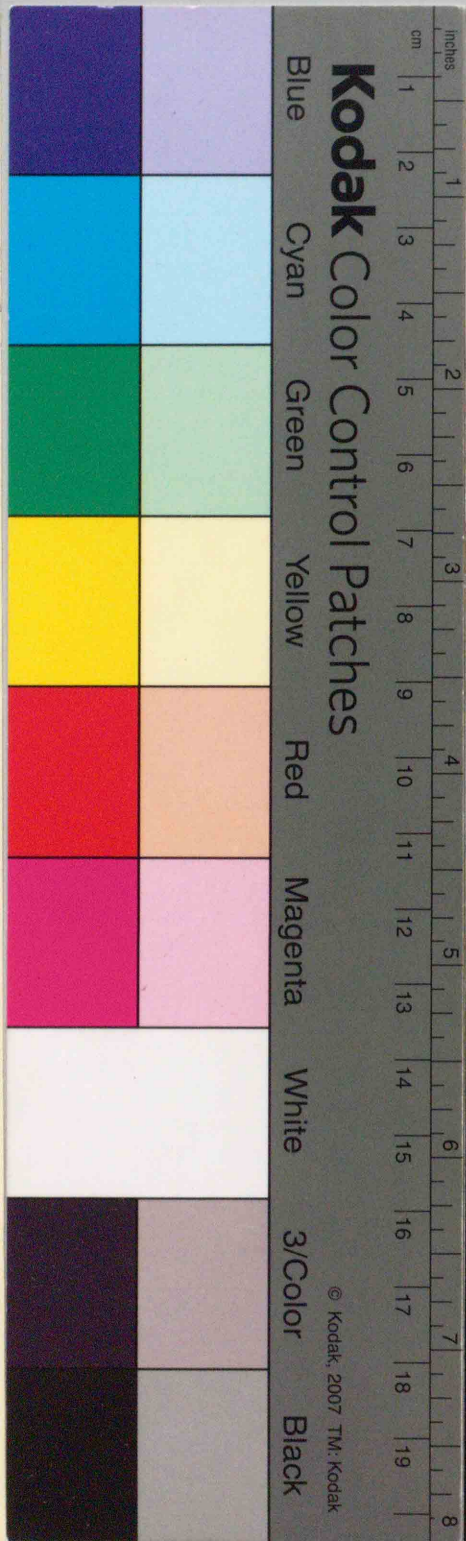


40954

教科書文庫

4
760
31-1933
25000 30961

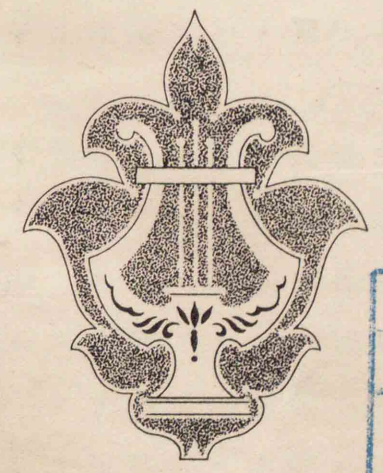


教科書文庫
4
760
31-1933
2500030961



尋常小學唱歌

伴奏附
第六學年用



登録番号	30961
分	375.9
類	M

文部省

広島大学図書
2500030961



緒 言

- 一、本書ハ音楽教育ノ進歩ト時代ノ要求トニ鑑ミ、從來本省著作ニ係ル「尋常小學唱歌」ニ改訂ヲ加ヘタルモノナリ。
- 二、本書ハ每卷二十七章トシ、取扱者ニ選擇ノ餘地ヲ與ヘタリ。
- 三、本書ノ歌詞ハ、舊歌詞中ノ適切ナルモノ、新作ニ係ルモノ、及ビ^{尋常}_{小學}國語讀本・尋常小學讀本中ノ韻文ノ一部ヨリ成ル。
- 四、本書ノ歌詞ハ努メテ材料ヲ各方面ニ採リ、文體・用語等ハ成ルベク讀本ト歩調ヲ一ニセンコトヲ期セリ。
- 五、本書ノ教材排列ハ強ヒテ程度ノ難易ノミニヨラズ、一面季節ニツキテモ考慮セリ。
- 六、本書ハ取扱者ノ便宜ノタメ、唱歌曲ノミノ樂譜ヲ掲ゲタルモノト、伴奏附ノ樂譜ヲ掲ゲタルモノト、二種類ヲ作製セリ。教授ニ際シテハ其ノ何レヲ採用スルモ可ナリ。
- 七、伴奏附ノ樂譜ヲ使用スル場合ニハ、前奏・後奏ノ如キハ時トシテ省略スルモ可ナリ

昭和七年十二月 文 部 省

目 次

一 明治天皇御製	2
二 朧月夜	4
三 遠 足	6
四 我等の村	8
五 瀬戸内海	12
六 四季の雨	16
七 日本海海戦	18
八 我は海の子	22
九 日本三景	26
一〇 風	30
一一 蓮 池	34
一二 森の歌	36
一三 瀧	40
一四 出征兵士	44
一五 故 郷	48
一六 秋	50
一七 燈 臺	52
一八 天照大神	54
一九 鷺	58
二〇 鎌 倉	62
二一 霧	66
二二 鳴 門	70
二三 雪	72
二四 スキーの歌	76
二五 夜の梅	80
二六 齋藤實盛	82
二七 卒業の歌	86

明治天皇御製

明治天皇御製

♩ = 92
mf

一 モ ノ マ ナ ブ ミ チ ニ タ ツ コ ヨ
二 さ し の ほ る あ さ ひ の こ と く
三 オ ノ ガ ミ ハ カ ヘ リ ミ ズ シ テ

オ コ タ リ ニ マ サ レ ル ア タ ハ
さ わ や か に も た ま ほ し は
ヒ ト ノ タ メ ツ ク ス ズ ヒ ト ノ

ナ シ ト シ ラ ナ ム
こ こ ろ な り け り
ツ ト メ ナ リ ケ ル

二

明治天皇御製

一、明治天皇御製

一、物^{モノ}學^{ガク}ぶ道^{ミチ}にたつ子^コよ、

おこたりに、まさされる仇^{カタ}は
なしとしらなむ。

二、さし昇^{ノボ}る朝^{アサ}日^ヒの如^{ごと}く、

さわやかにもたまほしきは
心^{ココロ}なりけり。

三、おのが身^ミはかへりみずして

人のため、盡^{ツク}すぞ人の
務^{ツメ}なりける。

三

朧 月 夜

朧
月
夜

♩=72

一 ナノ ハ ナバタ ケーニ イ リ ヒウス レ ミワ
ニ さと わ のほか げーも も り のいろ も たな

タ スヤ マ ノーハ カ ス ミフ カ シ ハル
か のこみ ちーを た ど るひ と も かは

カ ゼン ヨ フー ク ソー ラ フ ミレ バ ユー
づ のなく ねーも かーね のおとも さな

四

朧
月
夜

ツ キカカ リーテ ニ ホ ヒア ハ シ
が らかす めーる お ぼ ろづき よ

二、朧 月 夜

一、菜の花畠に、入日薄れ、
見わたす山の端 霞ふかし。
春風そよふく、空を見れば、
夕月かかりて、にほひ淡し。

二、里わの火影も、森の色も、
田中の小路をたどる人も、
蛙のなくねも、かねの音も、
さながら霞める朧月夜。

五

遠 足

遠
足

♩ = 120
mf

一 ナ ク ヤ ヒ バリ ノ コ エウ ラ ラ カ ニ
二 み ぎ に み ゆる は な だか き み て ら
三 タ ド リ ッ キ タ ル タウ ゲ ノ ウ ヘ ニ
四 か ぜ は お と な く や な ぎ を わ た り

カ ゲロフ 一 モ 一 エ テ ノ ハ ハ レ ワ タ ル
ひ だり に と 一 ほ く か す む は こ じやう ー
ナ ノ ハ ナ ニ 一 ホ フ サ ト ミ オ ロ シ テ
ふ 一 ね は し づ か に わ れ ら を の せ て

mp

イ ザヤ ワ ガ ト モ ウ チ ツ レ ユ カ ン
は る は ぶ の ご と わ れ ら を め ぐ る
ワ ラ ヒ サ ザ メ ク ヒ ル ゲ ノ ム シ ロ
ゆ く は い づ こ ぞ も も さ く む ら へ

六

遠
足

f mf

ケフ 一 ハ ウ レ シ キ エ ン ツ ク ノ ヒ ヨ
けふ 一 は た の し き ゑ ん そ く の ひ よ
ケフ 一 ハ ウ レ シ キ エ ン ツ ク ノ ヒ ヨ
けふ 一 は た の し き ゑ ん そ く の ひ よ

四 三 二 一

行 船 風 笑 菜 た 春 左 右 い か 鳴
今 ぐ は は 今 ひ の ど 今 は に に 今 ぎ げ く
日 は 静 音 日 さ 花 り 日 繪 遠 見 日 や ろ や
は 何 か な は ぎ に つ は の く ゆ は ふ ひ
た 處 に く う め ほ き た の と す は れ が え り
の ぞ 我 や れ く ふ た の し 我 む 名 し 友 て の
し 桃 を な し ひ り 見 峠 き 等 は 高 き ち は う
遠 さ の を 遠 げ 下 の 遠 を 古 き 遠 ち は う
足 く せ わ 足 の し 上 の 足 め 城 御 足 連 晴 ら
の 村 て たり 日 の む て に の ぐ 寺 の 日 行 れ ら
日 へ 日 よ 日 よ 日 よ 日 よ 日 よ 日 よ 日 よ 日 よ

三、遠 足

鳴くやひばりの聲はうらかに
かげろふもえりの野は晴れたる
いざや我が友は遠くへ行かん
右に見ゆるは名高き古御寺
左にかくすむ等は古き城
はに遠くのとすむ等は古き城
たどつきたる峠の下に
菜の花はほきたる見下しに
笑ひさぎはうめくひる見下しに
風は静かなくやれくふたのし我む名高き城御寺
船は静かなくやれくふたのし我む名高き城御寺
行は静かなくやれくふたのし我む名高き城御寺

七

我等の村

我等の村

♩ = 66

mp *sempre staccato*

一カス ムヤマベ 一ハム ラ サキニ
 二いで てたがや 一すを と このた
 三トメ ルマツシ 一キサ マ サマーナ
 四こ こ ぞわれら 一のう ま れしーと

ホ ヒ ノ ベ ハ コ ガ ネ ノ ナ ノ ハ ナ ザ カ
 め に そ ら の ひ ば り は ひ ね も す う た
 レ ド ム ラ ヲ ア イ ス ル コ コ ロ ハ ヒ ト
 こ ろ こ こ ぞ わ れ ら の そ た ち し と こ

poco rit.

我等の村

a tempo

リ ハ ル ノ ヒ カ リ ハ ク マ ナ ク
 ひ う ち に は た ら く を と め の
 ツ オ イ モ ツ カ キ モ タ ガ ヒ ニ
 ろ や が て わ れ ら の ち から に

ミ チ テ ナ ク ヤ ニ ハ ト リ コ エ サ ヘ ノ
 た め に は な は ま が き の ほ と り を か
 タ ス ケ ム ラ は サ ナ ガ ラ イ ツ カ ノ ム
 よ り て く に の ほ ま れ と な す べ き と

ド カ
 ざ る
 ツ ビ
 こ ろ

四、我等の村

一、霞む山べは紫にほひ、

野べは黄金の菜の花盛。

春の光はくまなく満ちて、

鳴くや鶏聲さへのどか。

二、出でて耕すをとこのために、

空のひばりはひねもす歌ひ、

うちに働くをとめのために、

花はまがきの邊を飾る。

三、富める貧しき様様なれど、

村を愛する心は一つ。

老いも若きも互に助け、

村はさながら一家のむつび。

四、ここぞ我等の生まれし處。

ここぞ我等の育ちし處。

やがて我等の力によりて、

國のほまれとなすべき處。

瀬戸内海

瀬戸内海

♩ = 84

mp
con Acc.

mp

一ノトケキハールノアサボラケデツ
 ニまへよりきーたるしーらほかげたち
 ミシツケキナーミニカゲウツスミド

mp

mf

キニタチテナガムレバア
 まちあーとにきえさーりてと
 リニマジルハナザクラニ

mf

瀬戸内海

p

サヒキラメクナミノウヘオボ
 ほくかすかにみえーたりししま
 ホフヤマベモイツーシカニナガ

p

mp

ロニカースムシマヤマノカゲ
 かげやーがてちかづけばまた
 メハカーハルオモシロサセト

mp

p

オモムーロニウツリユク
 あらはーるるしまいくつ
 ナイカーイノフネノタビ

p

五、瀬戸内海

一、のどけき春の朝ぼらけ、
 デツキに立ち眺むれば、
 朝日きらめく波の上、
 おぼろにかすむ島山の
 影おもむろに移りゆく。
 二、前より来る白帆かげ、
 忽ち後に消え去りて、

遠くかすかに見えたりし
 島影やがて近づけば、
 又あらはるる島いくつ。
 三、静けき波に影うつす
 緑にまじる花ざくら、
 にほふ山邊もいつしかに、
 眺は變るおもしろさ、
 瀬戸内海の船の旅。

四季の雨

四季の雨

♩ = 69
mf

一 フルト モミ エジ ハ ル ノアーメ
二 にはか にすーぐ る な つ のあーめ
三 ヲリ ヲリ ソーソ グ ア キ ノアーメ
四 きく た に さーむ き ふ ヨ のあーめ

p

ミ ツ ニ ソ ヲ カ ク ナ ミ ナ ク バ
もの ほ し ざーを に し ら ーつ ヨ を
こま ど の を ざ さ に さ や ーさ や と

ケ ブ ル ト バー カ リ オ モ ハ セー テ
な こ り と しーば し は し ら せー て
イ ロ サ マ ザー マ ニ ソ メ ー ナ シ テ
ふ け ヨ く よー は を お と づ れー て

四季の雨

mf

フ ル ト モ ミ エ ジ ハ ル ノ アー メ
に は か に すー ぐ る な つ の あー め
ヲ リ ヲ リ ソー ソ グ ア キ ノ アー メ
き く た に さー む き ふ ヨ の あー め

六、四季の雨

一、 降るとも見えじ、春の雨
水に輪をかき波なくば、
けぶるとも見えじ、春の雨
降るとも見えじ、春の雨
俄に過ぎる夏の雨、
物ほし竿に、白露を
なごりとし、白露を
俄に過ぎる夏の雨、
をりをりそそぐ秋の雨、
三、 木をりそそぐ秋の雨、
木の葉木の實を野に、山に、
色さまをりそそぐ秋の雨、
をりをりそそぐ秋の雨、
四、 窓の小だに寒さの雨、
更行く夜半をとおつれて、
聞くだに寒さの雨、

日本海海戦

日本海海戦

♩=92

一テ キカ ンミ エタ リチ カヅ キタ ーリ
 ニしゆ りよ く ーか ん た い ま ーへ を お さ へ
 三 トウ ーテ ンア カ ラ ミ ヨ ーギ リハ レ テ

ミ ク ニ ノコウ ーハ イ タ ダ コ ノイ ツ キヨ
 じゆ ん やう ーか ん た い う し ろ に せ ま り
 キヨ ク ジ ツカ ガ ヤ ク ニ ツ ポ ンカイ ジヤウ ー

カク キ ンフ ンレ イド リヨ クセ ヨ ト
 ふく ろ のね ず み と か こ みう て ば
 イマ ハ ヤノ ガ ル ル ス ベ モナ ク テ

日本海海戦

キカ ン ノホ バ シ ラ シ ン ガウ ーア ガ ル
 み る み る て き か ん み ー た ゝ れ ち る を
 ウ タ レ テ シ ズ ム モ ク タ ル モア ーリ

ミ ソ ラ ハ ハ ル レ ド カ ゼ ータ チ テ
 す ゐ ら い て い た い く ち ーく た い
 テ キ コ ク カ ン タ イ ゼ ン ーメ ツ ス

ツ シ マ ノオ ー キ ニ ナ ミ タ カ シ
 の が し は せ ー じ と お ひ て う つ
 テ イ コ ク バ ン ザ イ バ ン バ ン

七、日本海海戦

一、敵艦見えたり、近づきたり、

皇國の興廢、ただ此の一擧、

各員奮勵努力せよ。と、

旗艦のほばしらせ、信號揚る。

みそらは晴るれど風立ちて、

對馬の沖に浪高し。

二、主力艦隊、前を抑へ、

巡洋艦隊、後に迫り、

袋の鼠と圍み撃てば、

見る見る敵艦亂れ散るを、

水雷艇隊、驅逐隊、

逃しはせじと追ひて撃つ。

三、東天赤らみ、夜霧はれて、

旭日かがやく日本海上、

今はや遁るるすべもなく、

撃たれて沈むも降るもあり、

敵國艦隊全滅す。

帝國萬歲、萬歲。

我 は 海 の 子

我は海の子

♩ = 126

一 ワレハ ウ ミ ノ コ シ ラ ナ ミ ノ
 二 う ま れ て し ほ に ゆ あ み し て
 三 タ カ ク ハ ナ ツ ク イ ソ ノ カ ニ
 四 ちやう 一よ の ろ か い 一 あ や つ り て
 五 イ ク ト セ コ 一 コ ニ キ タ へ タ ル
 六 な 一 み に た た よ ふ ひ よ う 一 ざ ん も
 七 イ デ オ ホ フ 一 ネ ヲ ノ リ ダ シ テ

サ一ソグ イ ソ ベ ノ マ ツ バ ラ ニ
 な一みを こ も り の う た と き き
 フ ダ ン ノ ハ 一 ナ ノ カ ヲ リ ア リ
 ゆ 一 く て さ た め ん な み ま く ら
 テ ツ ヨ リ カ 一 タ キ ナ カ ヒ ナ ア リ
 き た ら ば き 一 た れ お そ れ ん や
 ソ 一 レ ハ ヒ ロ ハ ン ウ ミ ノ ト ミ

112

我は海の子

ケ一ム リ タ ナ ビ ク ト マ ヤ コ ソ
 セ一 ん り よ せ く る う み の き を
 ナ ギ サ ノ マ 一 ツ ニ ク カ ゼ ヲ
 も も ひ ろ ち ひ ろ 一 う み の そ こ
 フ ク シ ホ カ 一 セ ニ ク ロ ミ タ ル
 う み ま き あ ぐ る 一 た つ ま き も
 イ デ グ ン カ 一 ン ニ ノ リ ク ミ テ

ソ ガ ナ ツ カ 一 シ キ ス ミ カ ナ レ
 す 一 ひ て わ ら ベ と な り に け り
 イ ミ ジ キ ガ 一 ク ト ワ レ ハ キ ク
 あ 一 そ ひ な れ た る に は ひ ろ し
 ハ 一 ダ ハ シ ャ ク ド ウ 一 サ ナ が ら
 お こ ら ば お 一 こ れ お お ど ろ か
 ソ 一 レ ハ マ モ ラ ン ウ ミ ノ ク ニ

113

八、我は海の子

一、我は海の子、白浪の
 煙たさわぐいとまの松原に、
 たなびくとまよこそ、
 我がなつかしき住家なれ。

二、生まれしほに浴して、

三、高き鼻つてわらべとなりけり。

四、丈餘のろかい操りて、

五、幾年こにきたへたる庭廣し。

六、浪にただよふ氷山も、

七、いで我は軍艦に乘らん海國

八、吹く塩風に黒みたる

九、幾年こにきたへたる庭廣し。

十、吹く塩風に黒みたる

十一、浪にただよふ氷山も、

十二、海にまらばるつ

十三、いで我は軍艦に乘らん海國

十四、吹く塩風に黒みたる

日本三景

日本三景

♩ = 88

mf

一ミド リシ タタル ヤマ ーヲ ウ シ ロニ ナ
 ニよ さ の う ら なみ と ほ ーく つ づ ける な
 三マ ツ ノ ア ラ シハ サ サ ヤキ ア ヒ ーテ ウ

f

ミ ニタ ダ ヨ フ ア ケ ノ クワ イ ラウ ー タ
 か を か ぎ り て う か ぶ ま つ ば ら あ
 ミ ニ チ リ ボ フ チ シ マ イ ホ シ マ イ

mf *p*

ツ ノ ミ ヤ キ ノ ス ガ タ ハ コ レ カ ミ
 め の か よ ひ ぢ た え し は い つ か か
 カ ナ ル カ ミ ノ ナ シ シ タ ク ミ ズ ク

二六

日本三景

p *mf*

ギ ハ ノ トウ ー ロウ ー ミ ナ ヒ ヲ ト モ シ テ ヨ
 が や く ひ か げ に か み の よ お ほ えて あ
 ス シ キ ナ ガ ー メ ミ ル マ ニ カ ハ リ テ ア

f

ル ノ ミ ヤ ジ マ サ ラ ニ ウ ツ ク シ
 さ の は し た て こ と に め て た し
 メ ノ マ ツ シ マ イ ヨ ヨ メ ズ ラ シ

二七

九、日本三景

一、緑したたる山を後に、

波にただよふ朱の廻廊、

たつのみやゐのすがたはこれか。

みぎはの燈籠 皆火をともして、

夜の宮島 さらけに美し。

二、與謝の浦波遠く續ける

中をかぎりて浮かぶ松原

天の通路絶えしは何時か。

かがやく日影に神の代おぼえて、

朝の橋立 殊にめでたし。

三、松のあらしはささやきあひて、

海にちりぼふ千島・五百島、

如何なる神のなしし巧ぞ。

くすしきながめ見る間に變りて、

雨の松島 いよいよ珍し。

風

風

♩ = 100

mp *mf* *f*

p

一カゼヨカゼ
 二かぜよかぜ
 三ヨハフケス
 四よはあけぬ

mf *p*

mp *mf*

ソモイツチヨリ イツチフク
 そもいづちより いづちふく
 トモシビケシテ ネニユケバ
 とくおきいでて そのみれば

mp *mf*

風

mf

ク サノウヘ ヤ ブノナカ
 い けのうへ も りのなか
 ナ クガゴト ム セブゴト
 く さはふし き はたふれ

mf

ヲ カヲ スーギ タ ニヲ スーギ シ カモ
 む らを すーぎ さ とを すーぎ と りも
 ト ヲタ ターキ マ ドヲ ウーツ カ ゼヤ
 は なは ちーり み はお ちーぬ か ぜや

f *sf* *f* *sf*

カ ヨハヌ オク ヤー マ コ エー テ
 か よはぬ あら うー み こ ーえー て
 ウ ラヤム ソガ コー ノ フ シー ド
 あ れけん よす がー ら こ ーこー に

一〇、風

一、風よ風

そもいづちよりいづち吹く。

草の上、やぶの中、

岡を過ぎ、谷を過ぎ、

鹿も通はぬ

奥山こえて。

二、風よ風

そもいづちよりいづち吹く。

池の上、森の中、

村を過ぎ、里を過ぎ、

鳥も通はぬ

荒海こえて。

三、夜はふけぬ。

燈消してねに行けば、

泣くがごと、むせぶごと、

戸をたたき、まどをうつ。

風やうらやむ、

我が此のふしど。

四、夜は明けぬ。

とく起出でて園見れば、

草はふし、木はたふれ、

花は散り、實は落ちぬ。

風や荒れけん、

夜すがら此處に。

蓮 池

蓮
池

♩ = 160

マ ル ハ マ キ バ ラ ソ ヨ ガ セ テ
ニ い け の ほ と り に た た ず め ば

ア サ カ セ ワ タ ル イ ケ ノ オ モ
は な の か お そ ふ そ て た も と

タ ツ ヤ サ サ ナ ミ ウ キ ハ マ コ エ テ
そ ら は つ き し ろ ほ の か に み え て

蓮
池

マ ロ ビ マ ロ ブ ツ ユ ノ タ マ
み づ に し ろ し は な は ち す

ア ア ス ズ シ ス ズ シ ア ケ ボ ノ
あ あ す ず し す ず し ゆ ふ ぐ れ

一、蓮 池
丸葉卷葉をそよがせて、
朝風わたる池のおも。
立つやさざなみ、
浮葉を越えて、
まろびまろぶ露の玉。
あ、涼し涼し、
あけぼの。

二、
池のほとりにたたずめば
花の香おそふ袖袂。
空は月しろ、
ほのかに見えて、
水に白し花蓮。
あ、涼し涼し、
ゆふぐれ。

森の歌

森の歌

$\text{♩} = 63$
mp

一モ リノ オ イキハ コ ズエニ ミ キニ
 二も りの し たみち た どりて ゆ けば

カ ミヨ ナ ガラノ シ ンピヲ コ メテ
 し ばし このまの く らさは は れて

イ トオゴ ソ カニ シ ズマリ タ テリ
 ふ とみる か なた い づみは ほ がら

三六

B. major

森の歌

mf

フ シギヤ コ ダ マハ コ ダ マヲ ヨ ビ テ
 ふ しぎや や ま ひめ は は ゑみ た ち て

p

モ リノ ヒ メゴト カ タルト キ ケハ
 み づに す がたを う つすと み れば

mf *f* *mp* *poco rit.*

ア ラズ コ ヅ タフ ト リノコエ
 あ らず ひ と もと ゆ りの は な

三七

一、森の歌

一、森の老木は、こずゑに幹に、
 神代ながらの神祕をこめて、
 いとおごそかに静まり立てり。
 ふしぎや、木靈は木靈を呼びて、
 森のひめごと語ると聞けば、
 あらず、木傳ふ鳥の聲。

二、森の下道たどりて行けば

しばし木の間の暗さは晴れて、
 ふと見るかなた、泉はほがら。
 ふしぎや、山姫ほほゑみ立ちて、
 水に姿をうつすと見れば、
 あらず、一もと百合の花。

瀧

瀧

♩ = 116

First system of the musical score on the left page, including a vocal line and piano accompaniment.

Second system of the musical score on the left page, including Japanese lyrics and piano accompaniment.

Third system of the musical score on the left page, including Japanese lyrics and piano accompaniment.

Fourth system of the musical score on the left page, including Japanese lyrics and piano accompaniment.

〇四

瀧

First system of the musical score on the right page, including a vocal line and piano accompaniment with dynamics markings like *p* and *cresc.*

Second system of the musical score on the right page, including Japanese lyrics and piano accompaniment.

Third system of the musical score on the right page, including Japanese lyrics and piano accompaniment.

Fourth system of the musical score on the right page, including Japanese lyrics and piano accompaniment.

四一

一三、瀧

一、あへぎ登る山の懸路に、

はや聞ゆるは、瀧の音、

あたりにひびく瀧の音。

木の下の闇を抜け出て、

見上ぐれば、

目の前に、

荒野の吹雪さながらに、

落つるよ落つるよ、真白き流。

二、霧を含む風の冷たく

さと吹来れば、夏の日の

暑さも知らぬ岩の上、

木の下の陰にいこひつつ、

見下せば、

足もとには、

幾百千の白龍の、

をどるよをどるよ、碧の淵に。

出征兵士

出征兵士

$\text{♩} = 112$
mf

一 ユ ケ ヤ ユ ケ ヤ ト ク ユ ケ ソ ガ コ
 ニ さ ら ば ヨ く か や よ ま て わ が こ
 三 ウ レ シ ウ レ シ イ サ マ シ ウ レ シ
 四 お や に つ か へ お と と を た す け
 五 サ ラ バ サ ラ バ お チ チ ハ ハ サ ラ バ
 六 い さ み い さ み て い て ヨ く へ い し

四四

p

オ イ タ ル チ チ ノ ノ ゴ ミ ハ ヒ ト ツ
 お い た る は は の ね が ひ は ひ と つ
 シ ユ ツ セ イ へ イ シ ノ オ ト ト ゴ ワ レ ハ
 い ー ト へ ウ ト サ ラ せん い も う と わ れ は
 オ ト ウ ト サ ラ せん い も う と わ れ は
 は げ ま し つ つ も み お く る い つ か

出征兵士

mf

ギ ユウ ー ノ ツ ト メ ミ ク ニ ニ ツ ク シ
 い く さ に ヨ か ば か ら た を い と へ ン
 ア ニ ギ ミ ワ レ モ ア ト ヨ リ ユ カ け ず
 い ー へ の こ と を は こ こ ろ に か け ず
 ブ ユウ ー ノ ハ タ ラ キ コ イ ー ノ チ サ ゲ
 ヨウ ー き は か れ に な さ け は こ れ に

mf

カウ ー シ ノ ホ マ レ ソ ガ ヤ ニ ー ア ゲ ヨ
 た ー ま に し す と も や ま ひ ー に ー し す な
 キヤウ ー ダ イ ト モ ニ テ キ ラ ー バ ー ウ タ ン
 み く に の た め に ヨ キ ま ー セ ー い ざ や
 ミ ク ニ ノ テ キ ラ ウ チ ナ ー ン ー ワ レ ば
 い さ ま し や さ し を を し ー の ー わ か れ

四五

一四、出征兵士

一、行けや、行けや、とく行け、我が子。
老いたる父の望は一つ。

義勇の務、御國に盡くし、
孝子の譽、我が家にあげよ。

二、さらば行くか、やよ待て、我が子。
老いたる母の願は一つ。

軍に行かば、からだをいとへ。
彈丸に死すとも、病に死すな。

三、うれし、うれし、勇まし、うれし。
出征兵士の弟ぞ、我は。

兄君、我も後より行かん、
兄弟共に敵をば討たん。

四、親に事へ、弟を助け、
家を治めん、妹我は。

家の事をば心にかけず、
御國の爲に行きませ、いざや。

五、さらば、さらば、父母、さらば。
弟さらば、妹さらば。

武勇のはたらき、命ささげて
御國の敵を討ちなん、我は。

六、勇み勇みて出行く兵士。
はげましつつも見送る一家。
勇氣は彼に、情は是に、
勇まし、やさし、ををしの別。

秋

秋

♩=160

ト ン ボ ト ビ カ フ ノ ド ケ キー ヒ ヨ リ
ニ は や し わ け ゆ き お ち ぐ り ひ ろ ひ

mf

ワ ラ チ キ ヤ ハ ン ニ カ ロ ー ク イ デ タ チ
た に を わ た り て き の こ か り ゆ き

ノ ベ ニ ヤ マ ベ ニ サ ザ メ キー ア ソ ー ブ ア
き そ ふ え も の に こ こ ろ は い さ ー む あ

p *mf*

秋

ア コ ノ ア キ コ コ チ ヨ ー ヤ ー
あ この あ き お も し ろ や ー

一六、秋

一、蜻蛉とびかふのどけき日和、
わらぢ脚絆に軽くいでたち、
野べに、山べに、

さざめき遊ぶ。
ああ、この秋、心地よや。

二、林わけゆき、落栗ひろひ、
谷をわたりて茸かりゆき、
きそふえものに

心は勇む。
ああ、この秋、面白や。

燈 臺

♩ = 104

燈 臺

mf

一 ソ ラ ニ ハ ツ キ ナ ク ホ シ サ ヘ ミ エ ヌ
 ニ し ら ず や や み よ に う な ば ら と ほ く
 三 カ シ コ ノ ミ サ キ ノ イ ハ ホ ノ ツ ヘ ニ

ア メ ノ ヨ エ キ ノ ヨ ア ラ シ ノ ヨ ハ ニ
 ふ な ぢ を し め せ る ひ か り の あ る を
 ソ ビ ユ ル ト ウ タ イ イ タ タ キ タ カ ク

サ カ マ ク ア ラ ナ ミ ソ ケ ユ ク フ ネ ハ
 し ら ず や よ す が ら あ ら し に き え で
 ヨ ル ヨ ル カ ガ ヤ ク ト モ シ ビ コ ソ ハ

五二

燈 臺

mf

ナ ニ ラ カ シ ル ベ ニ カ チ ツ カ ト レ ル
 ゆ く て を を し ふ る あ か し の あ る を
 ユ キ カ フ フ ネ ニ ハ タ フ ー ト キ マ モ リ

一、空には月なく、星さへ見えぬ
 雨の夜、雪の夜、嵐の夜半に、
 さかまく荒波分けゆく船は、
 何をかしるべに舵柄取れる。

二、知らずや、闇夜に海原とほく
 船路を示せる光のあるを。
 知らずや、夜すがら嵐に消えて、
 ゆくてを教ふるあかしのあるを。

三、かしこの岬の巖の上に
 聳ゆる燈臺、頂高く、
 夜輝くともし火こそは、
 行きかふ船には尊きまもり。

一七、燈 臺

天照大神

弱記小節 (変拍小節) (12拍子)

♩=100

天照大神

mf

一 ト ヨ ア シ ハ ラ ノ ナ カ ツ ク ニ
 二 あ め の つ く た に み た つ く り
 三 モウ コ ノ ア タ ノ ヨ セ シ ヒ モ

ス メ ミ マ ユ キ テ シ ロ シ メ セ
 い み は た ど の に み ぞ お ら せ
 カ ミ カ ゼ コ ソ ハ オ コ リ シ カ

p

ア マ ツ ヒ ツ ギ ハ ア メ ツ チ ト
 た ふ と き み み の さ き た ち て
 コ ト ク ニ マ デ モ コ ト ム ケ テ

五四

天照大神

mf

キ ハ マ リ ナ シ ト ク ニ ノ モ ト
 あ を ひ と ぐ さ の な り は ひ に
 カ ガ ヤ ク ミ イ ツ マ ノ ア タ リ

p

サ ダ メ タ マ ヒ シ ア マ テ ラ ス
 い そ し み ま し し あ ま て ら す
 イ マ モ ム カ シ モ ア マ テ ラ ス

mf

カ ミ ノ ミ コ ト ゴ ウ ゴ キ ナ キ
 か み の め ぐ み ぞ か ぎ り な き
 カ ミ ノ マ モ リ ゴ イ チ ジ ル キ

五五

一八、天照大神

一、豊葦原の中つ國、皇孫行きて知らしめせ。

天つ日嗣は天地と、國の基

定め給ひし天照らす

神の御言ぞ動なき。

二、天の營田に御田作り、

齋服殿に御衣織らせ、

尊き御身の、さきだちて、

蒼生のなりはひに

いそしみましし天照らす

神の恵ぞ限なき。

三、蒙古の敵の寄せし日も、

神風こそは起りしか。

こと國までもことむけて、

かがやく御稜威まのあたり、

今も、むかしも天照らす

神の護ぞいぢるき。

鶯

♩ = 108

mf

一クモヲシノケルラウボクノ
ニどたうーさかまくぜつかいの

mf marcato

コズエノウヘノアラワシハ
こたうーにすくふあらしは

f

ヒロキウチウヲヘイゲイス
あらしをついてあまかけり

f

鶯

ミソラノクンシユサナガラニ
はぐくむひなにゑをはこぶ

mf

ケダカクヲヲシトリノウウー
やさしくつよしとりのわうー

mf

f

ソシノスガタ
わしのこころ

f

一九、鷺

一、雲を凌げる老木の

梢の上の荒鷺は、

廣き宇宙を睥睨す、

み空の君主さながらに。

氣高く、雄雄し、

鳥の王、鷺の姿。

二、怒濤逆巻く絶海の

孤島に巣くふ荒鷺は、

暴風雨をついて天翔り、

育む雛に餌を運ぶ。

やさしく、つよし、

鳥の王、鷺の心。

鎌倉

鎌
倉

MOLL

♩ = 120

一 シ チ リ ガ ハ マ ノ イ ソ ツ タ ヒ
二 ゴ く ら く じ ざ か こ え ゆ け ば
三 ユ ー ヒ ノ ハ マ ベ ミ ギ ニ ミ テ
四 の ぼ る や い し の き ざ は し の
五 ツ カ ミ ヤ ダ ー ノ ま ー ヒ ノ ソ デ
六 か ま く ら ぐ ー に ま う ー で て は
七 レ キ シ ハ ナ ガ シ シ チ ヒ ヤ ク ネ
八 け ん ち ゃ う 一 系 ん が く ふ る で ら の

mp

イ ナ ム ラ ガ サ キ メ イ シ ャ ウ ー ノ
は せ く わ ん の ん の た う ー ち か く
ユ ー キ ノ シ タ ミ チ ス ギ ユ ケ バ
ひ だ り に た か き お ほ い て ふ ー
シ ツ ノ ヲ タ マ キ み う ら み に
つ き せ ぬ み こ の み う ら み に
コ ウ ー パ ウ ー ス ベ テ ユ メ ニ ニ テ
さ ん も ん た か き ま つ か せ に

鎌
倉

ツ ー ル ギ トウ ー ゼ シ コ セ ン チ ャ ウ ー
ろ ざ の ー ン だ だ い ぶ つ お は し ち ま す
ハ チ マ ン グ ー ノ ー 一 一 一 一 一 一 一 一 一
と は ば や と と ー 一 一 一 一 一 一 一 一 一
カ は シ シ シ と ー 一 一 一 一 一 一 一 一 一
ひ へ ん の の ー 一 一 一 一 一 一 一 一 一
エ ふ ん ユ の ー 一 一 一 一 一 一 一 一 一
む か し の ー 一 一 一 一 一 一 一 一 一

mf

二〇、鎌倉

一、七里が濱のいそ傳ひ、
 稲村崎の名將の
 劔投ぜし古戦場
 二、極楽寺坂越え行けば、
 長谷観音の堂近く、
 露坐の大悲佛おはします。
 三、由比の濱邊を右に見て、
 雪の下道過行けば、
 八幡宮の御社行けば、
 四、上るや石のきざはしの
 左に高き大いふ世の跡
 問はばや遠き世の跡

五、若宮堂の舞の袖、
 しづのをだまきくりかへし
 かへしし人をしのびつつ。
 六、鎌倉宮にまうでては、
 盡きせぬ親王のみうらみに、
 悲憤の涙わきぬべし。
 七、歴史は長し七百年、
 興亡すべてゆめに似て、
 英雄墓はこけむしぬ。
 八、建長・圓覺古寺の
 山門高き松風に、
 昔の音やこもるらん。

霧

霧

$\text{♩} = 84$
mf

一シラ ジラト アーサギリ ノヤマヲー コメーテ
 ニしめ やかに よーのきり ちまたを一つつみ

ツキ ノゴト ニーチーリン ホノカ ニウカーブ
 たち なら ぶいーへーいへ ともし びう るむ

mp

ノチヲユク ヒト カゲ タダ ーチニキエテ
 かげのごと ひと さりひと ーくる おほち

mp

霧

mf *f*

ケタ タマシ モズノネ コズエハイ ツコ
 ほろ ほろと きこゆる ふえのねい づこ

mf

タニ マヨリ ハーヒイテ キノミ キーヌラーシ
 まど ぎはに はーひより がらす どぬらーし

mf

f

シラ ジラト オーポーロニ アサギリ ナガル
 しめ やかに ひーそーかに よのきり ながる

f

二、霧

一、しらじらと、

朝霧野山をこめて、

月のごと、日輪ほのかに浮かぶ。

野路を行く人影ただちにきえて、

けたたまし、もずの音

こずゑはいづこ。

谷間よりはひ出で、木の幹ぬらし、

しらじらと、

おぼろに朝霧流る。

二、しめやかに、

夜の霧ちまたをつつみ、

立ち並ぶ家家、ともしびうるむ。

影のごと、人去り人來る大路、

ほろほろと聞ゆる

笛の音いづこ。

窓ぎはにはひ寄り、ガラス戸ぬらし、

しめやかに、

ひそかに夜の霧流る。

鳴門

鳴門

$\text{♩} = 72$
mp

一 ア ハ ト ア ハ チ ノ ハ サ マ ノ ウ ミ ハ
二 や ま も と ど ろ に ひ き し ほ た ざ り
三 ハ ダ カ ジ マ ヨ リ ウ ツ シ ホ ミ レ バ

mp 輕快に

コ コ ゾ ナ ニ オ フ ナ ル ト ノ シ ホ チ
た ぎ る ひ き し ほ あ ら う づ を ま き
ム ネ モ ナ ミ ダ チ マ ナ コ モ ク ラ ム

ヤ ヘ ノ タ カ シ ホ カ チ ド キ ア ゲ ラ
ま い て な が れ て な が れ て ま い て
セ ン ド イ サ マ シ コ ノ シ ホ ス チ ヲ

鳴門

mf

ウ ミ ノ ホ コ リ ノ ア ル ト コ ロ
そ ら に と ひ た つ し ほ け む り
オ ト シ コ ギ ユ ク コ ノ ハ ズ ネ

mf

mf

三、鳴門

一、阿波と淡路のはざまの海は、
此處ぞ名に負ふ鳴門の潮路。
八重の高潮かちどき揚げて、
海の誇のあるところ。

二、山もとどろに引潮たぎり、
たぎる引潮あら渦を巻き、
巻いて流れて流れて巻いて、
空にとびたつ潮けむり。

三、裸島より渦潮見れば、
胸も波だち眼もくらむ。
船頭勇まし、此の潮筋を、
落とし漕ぎゆく木の葉舟。

雪

雪

♩ = 63

— アザカニ ユキーコソ ツモレ
ニピヒソヒソと pp ささやく けはひ

mp
アケガタノ メヌキノト ホリガイ
mp ふるゆきの p よるのしづ けさmpほど

v p
ロジモシロガネナシテ アマソソルタカ
ちかきちんじゆのもりの pいてふ—のきひと

七二

雪

キタテモノアブラエノケシキニターリ
りそびえてうきぼりのまじうーのごとし

少し早く ♩ = 80
カカルトキアサノキテキノチマタヨリチマタヲコメテ
pp うすれゆく p まどのともしび ひとはみな mf ねやにこもりて

少し早く ♩ = 80
タカナレバ ヒトハメザメヌ ソウライハ
むらざとは mp ふかくねむりぬ ゆき—をれの

次第に遅く Tempo I. rit.
サワメキタチテ ユキカキノ オトモマジレリ
p たけのひびきも まどかなる pp ゆめをみださず

次第に遅く Tempo I. rit.

七三

二三、雪

一、鮮かに雪こそ積れ、
明方の目ぬきの通。

街路樹も銀なして、

天そそる高き建物、

油繪の景色に似たり。

かかる時、朝の汽笛の

巷より巷をこめて

高鳴れば、人は目覺めぬ。

往來はざわめき立ちて、
雪かきの音もまじれり。

二、ひそひそとささやくけはひ、

降る雪の夜の静けさ。

程近き鎮守の森の

いてふの木ひとりそびえて、

浮彫の巨像の如し。

薄れ行く窓の燈、

人は皆ねやにこもりて、

村里は深く眠りぬ。

雪折れの竹の響も、
圓かなる夢を亂さず。

スキーの歌

スキーの歌

♩ = 120

f

一 カ ガヤクヒノカーゲ - ハユール - ノヤマ
 二 とぶとぶおほぞら - はしる - たいち
 三 ヤマコエヲカコエ - クダール - シヤメン

mf

カ ガヤクヒノカーゲ - ハユール - ノヤマ フ
 とぶとぶおほぞら - はしる - たいち いつ
 ヤマコエヲカコエ - クダール - シヤメン タ

七六

スキーの歌

モ トヲメ ガケテ スタート キレーバ
 はくかげ なき てんちのうちを
 チマチサヘギル タニヲバメガーケ

f

コユキハマヒターチ - カゼハ - サケ
 すとつくかざし - て - われは - かけ
 ヲドレバサナガ - ラ - ヒテウ - ノ - コ

ff

ブカゼハサケ - ブ
 るわれはかけ - る
 チヒテウ - ノ - コ - チ

* この二重音は低音部を主旋律とす

七七

二四、スキーの歌

一、輝く日の影はゆる野山。

輝く日の影はゆる野山。

麓を目がけてスタートできれば

粉雪は舞立ち、風は叫ぶ。

風は叫ぶ。

二、飛ぶ飛ぶ大空を走る大地。

飛ぶ飛ぶ大空を走る大地。

一、白影なき天地の中を

ストックかざして我は翔る、

我は翔る。

三、山越え、丘越え、下る斜面。

山越え、丘越え、下る斜面。

忽ちさへぎる谷をば目がけ、

躍ればさながら飛鳥の心地、

飛鳥の心地。

夜の梅

夜の梅

♩ = 152

ズ - エ マ バ ラ ニ サ キ - ソ メ シ - ハ
 な - も さ え た も そ の - ま ま に - う

ナ - ハ サ ヤ カ ニ ミ エ - ネ ド モ - ヨ
 つ - る す み 豆 の か み - し や う - じ - か

八〇

夜の梅

ド - ハ ト サ サ ス ヤ ミ - ノ ウ メ - ニ は
 ど - は ひ ら か ぬ つ き - の う め -

二五、夜の梅

八一

一、梢まばらに咲初めし
 花は、さやかに見えねども、
 夜もかくれぬ香にめてて、
 窓はとざさぬ闇の梅。

二、花も、小枝もそのままに
 うつる墨畫の紙障子。
 かをりゆかしく思へども、
 窓は開かぬ月の梅。

齋藤實盛

齋藤實盛

♩ = 92 *mf*

ト

mf *mf*

シハオユトモシカスガニユ
 しきかざりてかへるとのむ

p

ミヤノナヲバクタサジトシ
 かののためしひきいでての

p

ロキビンヒゲスミニソメワ
 ゴみのごとくこひえつるあ

齋藤實盛

mf

カトノバラートキソヘツツ
 かぢにしきのひたたれをこ

mf

ユウノホマレヲマツダイマデノ
 ぎやうのいくさにかがやかししき

1. 2.

コシシキミノヲヲシサヨニ
 みがこころのやさしさよ

1. 2.

mf

二六、齋藤實盛

一、年は老ゆとも、しかすがに

弓矢の名をばくたさじと、

白き鬚鬚墨にそめ、

若殿原と競ひつつ、

武勇の譽を末代まで

残しし君の雄雄しさよ。

二、錦かざりて歸るとの

昔の例ひき出でて、

望の如く乞ひ得つる

赤地錦の直垂を、

故郷のいくさに輝かしし

君が心のやさしさよ。

卒業の歌

卒業の歌

$\text{♩} = 104$
mf

一 ッレ シウレ シ ャウレ シヤナヒ
二 うれ しうれし やうれし やーな いム
三 ッレ シウレ シ ャウレ シヤナム
四 うれ しうれし やうれし やーなし

ト ノ コー ド モ ノ オ シ ナ ベー テ フー ム ヲ ミー
ろ は の い を も わ き ま へ ぬ み の い つ
ト セ ノ ツ キ ヒ テ ヲ ト リ テ ヲ シ ヘ ター
の た ま も の の ち を と く を か ぢ に し

f

ク ニ ノ オ キー テ ナー ル マ ナ ビー ノ ミー チー ノ ムー
し か に つ み え た る に し も ひ が し も し
マ ヒ シ シ ノ キ ミー ノ ミー チー ビー キー ナー クー バイ
を り に よ の う み を わ た り て ゆー か ー ん な

八六

卒業の歌

ト セ ヲ バ ヲ ヘ シ ケ フ コ ソ ウ レ シ ケ
ら ざ り し み の い つ し か に わ け え た
カ デ ソ ガ コ コ ロ ニ ヒ ラ ク チ ハ ト ク
ほ た か き ま な ひ の た か ー ね よ ぢ て み

mf

レ ヤ ナ ギ サ クー ラ ノ ハ ル ニ ホー フ ニ
る よ の ひ と な み の も じ の か ず よ
ハ ン オ モ へ バ ウー レ シ シ ノ ナ サ ケ オ
ん し の き み さ ら ば す こ や か に わ

シ キ ヲ ソ ヘ テ ノ モー ヤ マ モ
の ひ と な み の み ち の す ぢ
モ へ バ ウー レ シ シ ノ ナ サ ケ オ
が と も さ ら ば す こ や か に

八七

二七、卒業の歌

一、うれし、うれしや、うれしやな。

人の子どもの、おしなべて

ふむを御國のおきてなる、

學の道の六年をば卒へし今日こそうれしけれ。

柳櫻の春にほふ、

錦をそへて野も、山も。

二、うれし、うれしや、うれしやな。

いろはのいをもわきまへぬ

身のいつしかに積得たる、

西も、東も知らざりし身のいつしかに分得たる、

世の人並の文字の數、

世の人並の道の筋。

三、うれし、うれしや、うれしやな。

六年の月日、手を取りて

教へ給ひし師の君の

導なくば、いかで我が心に開く、智は、徳は。

思へばうれし、師の情、

思へばうれし、師の恵。

四、うれし、うれしや、うれしやな。

師の賜の智を、徳を、

かぢに、しをりに、世の海を

わたりて行かん、なほ高き學の高嶺よちて見ん。

師の君さらば、健かに、

我が友さらば、健かに。

新訂
尋常小學唱歌
伴奏附

不許複製

18

第六學年用 定價金四拾壹錢

昭和八年一月三十日 印刷
昭和八年二月十五日 發行

文部省

著作權者 文 部 省

發行者 大日本圖書株式會社
東京市京橋區銀座一丁目五番地

代表者 取締役社長 杉山常次郎

印刷者 大橋光吉
東京市小石川區久堅町百八番地

印刷所 共同印刷株式會社
東京市小石川區久堅町百八番地

發行所 大日本圖書株式會社
東京市京橋區銀座一丁目五番地

振替貯金口座〔東京二一九番〕電話京橋二七三番二七四番

頌
成
郡
東
志
和
村

頌
成
郡
東
志
和
村
八
言
錄
本

3-1505

31
250